

編集後記

先日、動物園に行った。目的は二足直立で国民的アイドルとなった「彼」の仲間のレッサーパンダを一目見るためである（この号が発行される頃には下火になっているように思うが）。この動物園のレッサーパンダは彼のような芸当はできないが、それでもその周りは大勢の親子連れでにぎわっていた。これまでレッサーパンダはそれほど注目される動物ではなかったと思うが、今回の報道を契機に知らぬ人はいないほどまでその知名度が上昇する結果となった。

話は変わるが、サッカー日本代表が2006年ワールドカップドイツ大会出場を決めた。今でこそ、サッカーは国民的関心事の一つとなっているが、私がサッカーをしていた学生の頃（10数年前）には、このような状況はまったく想像できなかった。現在のような盛り上がりは、代表チームをはじめとするサッカー界全体が、期待される成果を着実に積み上げていった結果のように思う。

無理矢理ではあるが、これら二つの話題をプラズマ・核

融合に関連づけてみたい。先の二つの話題に共通するのは、多くの人々がその話題に関心を持っていることである。関心を引く理由は、シンボリックな成果（二足直立、ワールドカップ出場）がある所以であろう。一方、プラズマ・核融合ではどうであろうか？最近でこそプラズマを利用した家電製品の普及により、プラズマという言葉は広く浸透した感がある。ところが核融合やITERとなるとそれ程認知度が上がっているようには思えない。この号が手元に届く頃にはITER建設地が決定しているだろうが、どのような決定になっていたとしても日本が深く関わっていく巨大プロジェクトには変わりないであろう。そしてそれは、国民の理解や関心なくしては成り立たないだろう。フランスではITER誘致活動に際して、ITERを国民的関心事にまで高めているとの報道があった。日本のプラズマ・核融合研究もレッサーパンダとサッカーに学ぶべき点は多いように思うといったら言い過ぎであろうか。

(江角直道)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副 会 長	山中 龍彦 藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一 (総務委員長)
理 事	今井 剛 奥野 健二 佐藤浩之助 高山 力三 (企画委員長) 森 雅博		榎戸 武揚 (広報委員長) 尾崎 章 (財務委員長) 田中 和夫 (プログラム委員長) 堀岡 一彦 (広告委員長) 吉田 善章 (編集委員長) 藤山 寛		岡野 邦彦 (出版委員長) 際本 泰士 二宮 博正 松岡 啓介
監 事	長谷川 満				

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章 (東大新領域)

エディター 凶子秀樹 (九大), 関 昌弘 (原研), 田中雅慶 (核融合研), 西村博明 (阪大), 福山 淳 (京大), 藤山 寛 (長崎大)

編集委員 荒巻光利 (名大), 飯塚 哲 (東北大), 岩尾 徹 (武蔵工大) 岩切宏友 (九大応力研), 岩前 敦 (京大院工), 上田良夫 (阪大院工), 江角直道 (長野高専), 片沼伊佐夫 (筑波大プラズマ), 門 信一郎 (東大高温プラズマ), 菅野龍太郎 (核融合研), 近藤公伯 (阪大院工), 榎田 創 (産総研), 重森啓介 (阪大レーザー研), 篠原俊二郎 (九大院総理工), 鈴木 哲 (原研那珂), 妹尾和威 (核融合研), 高杉忠 (日大量科研), 高橋栄一 (産総研), 永岡賢一 (核融合研), 服部邦彦 (東北大院工), 林 康明 (京都工繊大), 楡川浩之 (筑波大プラズマ), 増崎 貴 (核融合研), 南 貴司 (核融合研), 山内有二 (北大院工), 山本 靖 (京大エネ理工研), 山本 巧 (原研那珂)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第81巻第7号

編集・発行

〒464-0075 名古屋千種区内山3丁目1-1 1階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3185

E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: http://www.jspf.or.jp/

印 刷 株式会社荒川印刷

2005年(平成17年)7月25日

定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。